



Sharper Shapeは、公共インフラ向けに最高クラスのデータとハイコンテキストなデジタルツインを作成することができる、AIによるエンドツーエンドの統合技術一式(CORE)を提供しております。このデジタル資産レジストリは、検査効率を高め、公益事業および重要なインフラ資産の高性能な分析を提供するために使用されます。COREは、デジタル検査ワークフロー用に設計されたソフトウェア一式で、飛行計画やフィールドプランニング、データの取り込み、レビュー、リモート検査、欠陥の特定、評価、報告まで、エンドツーエンドのプロセスを処理します。

社会が抱える問題とその解決策

公益事業者は、増大するコストと異常気象の影響から消費者を守るため、既存のインフラとその運用方法を評価しています。公共設備の状態を監視し、メンテナンスを計画するために使用されている既存のシステムとプロセスは、現在のビジネス環境には不十分です。Sharper Shapeは、自動化、ヒト、人工知能を組み合わせた最先端の統合インテリジェンスプラットフォームを提供することで、公益事業者が主要なリスク要因に対処し、リスクベースの事前対応型資産管理システムへ移行できるよう支援することに注力しています。

当社は次の3つの主要なサービスを提供しています。1. 公共設備の安全リスクを特定するためのデータ収集と分析 2. 先進のリモートセンシング技術の市場投入 3. 資産を管理・評価するためのクラウドベースのソフトウェアプラットフォーム「CORE」 Sharper Shapeのハードウェアとソフトウェアのツールは、飛行計画、空中からのデータ収集、飛行後の分析、実用的なレポートの作成まで、プロセスの自動化を支援します。

自社・製品の強み

- 独立しつつも完全に統合されたモジュールは、配置を変えることができ、さまざまな公共事業のニーズに対応します。
- ハイコンテキストな可視化、アナリティクス、人工知能、機械学習を実現する、堅牢でシームレスなプラットフォームです。
- 現場で実証された包括的なワークフローにより、ユーザーはデータの取得と評価プロジェクトを終始管理することができます。
- 合理的で使いやすいインターフェースは、トレーニングや立ち上げ時間、コストを最小限に使用できます。

ビジネスモデル

Sharper Shapeは、データ収集、ソフトウェア利用料、サービス(データ分析・保存)の組み合わせで収益を得ています。データ収集は、データの量とアクセスに基づいて、データの収集と保管を行うレートのサービスです。当社のソフトウェアサービスは、SaaS(サービスとしてもソフトウェア)モデルを用いており、ソフトウェアプラットフォーム「CORE」のソフトウェアライセンス料およびメンテナンス料が含まれています。

Hack Osakaの参加目的

- 現地企業と提携し、日本の重要インフラ事業者データ収集サービスを提供するため
- 公共事業、インフラ、通信事業者向けにCOREをサービスとして提供するために協業する
- 日本市場やアジアのビジネスチャンスに注目する新規投資家の発掘

創立年	2013
ウェブサイト	www.sharpershape.com
所在地	デラウェア(アメリカ)
資金調達	シリーズA1,550万米ドル(約17億7,000万円)
世界市場での実績	アメリカ、ヨーロッパ、インド、南アメリカ、アラブ首長国連邦
日本語対応	×(Hack Osaka 2022商談会では逐次通訳対応)